

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：液化炭酸ガス

供給者の会社名称：アバンテ都島株式会社

住所：〒534-0021 大阪府大阪市都島区都島本通3-22-2

部門1：本社

連絡先：電話番号：06-6921-6035 FAX番号：06-6921-4623

部門2：福知山事業所

連絡先：電話番号：0773-27-5043 FAX番号：0773-27-3685

推奨用途

：アーク溶接、炭酸ガス鋳型、炭酸ガス施肥、CO₂インキペータ、化学工業原料、pHコントロール、エアゾール噴射剤、消火剤、ドライアイス原料、炭酸飲料、冷凍食品製造用、冷媒、複合吹錬製鋼、舞台演出（白煙発生）。

：本製品の使用にあたっては該当する各法律に基づき使用すること。

整理番号：A-07

作成日：2026年 4月 1日

2. 危険有害性の要約

【化学品のGHS分類】GHS第6版準拠

物理化学的危険性

高圧ガス

：液化ガス（シンボル：ガスボンベ、注意喚起語：警告）

：深冷液化ガス（シンボル：ガスボンベ、注意喚起語：警告）

健康に対する有害性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

：区分3（気道刺激性）（シンボル：感嘆符、注意喚起語：警告）

※上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない又は分類できない。

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル：



注意喚起語

危険有害性情報

：警告

：高圧ガス：熱すると爆発のおそれ

：深冷液化ガス：凍傷又は傷害のおそれ

：眠気又はめまいのおそれ

注意書き

安全対策

：粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレアの吸入を避けること。

：屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。

：耐寒手袋及び保護面又は保護眼鏡を着用すること。

：吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

：気分が悪いときは医師に連絡すること。

：凍った部分をぬるま湯で溶かすこと。受傷部はこすらないこと。直ちに医師の診察／手当てを受けること。

：容器を密閉しておくこと。

保管

- : 施錠して保管すること。
- : 日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。
- : 内容物／容器は勝手に廃棄せず、製造者又は販売者に返却すること。

廃棄

- GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性
 - : 窒息性。酸素濃度 18 vol%未満のガスを吸入すると、酸素欠乏がおこり、窒素の微候（呼吸数増加、疲労感、めまい、意識喪失）があらわれ、酸素濃度 10 vol%未満では意識喪失し死亡するおそれがある。
 - : 二酸化炭素中毒。二酸化炭素濃度 3 vol%超のガスを吸入すると、二酸化炭素中毒の微候（めまい、呼吸困難、頭痛、錯乱等）があらわれ、更に濃度が高くなると、眠気、意識喪失、呼吸停止を経て死亡するおそれがある。
 - : 紛失するガスを眼に受けると失明するおそれがある。
- 重要な微候及び想定される非常事態の概要
 - : このガスが大量に漏えいすると、燃焼を促進し、火勢を強めるおそれがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

- 化学名又は一般名
- 慣用名又は別名
- 化学特性（化学式等）
- 化学物質を特定できる一般的な番号
- CAS番号
- 成分及び濃度又は濃度範囲
- 官報公示整理番号
- 化審法
- 安衛法
- : 化学物質（単一製品）
- : 二酸化炭素
- : 炭酸ガス、液化二酸化炭素
- : CO₂
- : 124-38-9
- : 99.5 vol%以上（99.7 wt%以上）
- : (1)-169
- : 公表物質

4. 応急処置

吸入した場合

- : 新鮮な空気の場所に移し、衣服を緩め毛布等で温かくして安静にさせる。
- : 気分が悪いときは、医師の治療を受ける。
- : 呼吸が弱まっていれば、酸素吸入を行う。
- : 呼吸が止まっていれば人口呼吸を行い、医師の治療を受ける。
- : 凍傷を起こす。凍傷部分を多量の水で温め、医師の治療を受ける。凍傷部分を擦ってはならない。凍傷部分の衣服が凍り付いて取れないときは、無理に取らず、その他の部分のみ衣服を切り取る。
- : 多量の水で洗い、直ちに医師の治療を受ける。
- : 口をすすぐ。
- : 「吸入した場合」に準ずる。

皮膚に付着した場合

眼に入った場合 飲み込んだ場合

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

- : 酸素濃度 18 vol%未満のガスを吸入すると、酸素欠乏が起こり、窒息の微候（呼吸数増加、疲労感、めまい、意識喪失）があらわれ、酸素濃度 10 vol%未満では意識喪失し死亡するおそれがある。
- : 液化ガスに触れると、低温により皮膚組織が凍り、凍傷の微候（皮膚の発赤、腫れ、痛み）があらわれる。
- : 二酸化炭素濃度 3 vol%超のガスを吸入すると、二酸化炭素中毒の微候（めまい、呼吸困難、頭痛、錯乱等）があらわれ、更に濃度が高くなると、眠気、意識喪失、呼吸停止を経て死亡するおそれがある。

応急処置をする者の保護に必要な注意事項

：このガスが漏えい又は噴出ししている場所では、窒息並びに二酸化炭素中毒のおそれがあるため換気を行い、必要に応じて陽圧式空気呼吸器を着用する。また、皮膚等に付着させないよう、保護眼鏡、乾いた皮手袋等の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

：周辺火災に合わせた消火剤を使用する。散水、噴霧水、粉末消火剤、泡消火剤等。

使ってはならない消火剤

：なし。

火災時の特有の危険有害性

：容器が火災にさらされると内圧が上昇し、安全装置が作動してガスが噴出する。

：火勢により容器の内圧上昇が激しいときは、容器の破裂に至ることもあり、破裂した容器は飛散しあるいはロケットのように飛んで危害を与えることがある。

：液化ガスが漏えいして気化すると体積が数百倍になるため、換気の悪い場所では窒息並びに二酸化炭素中毒のおそれがある。

特有の消火方法

：関係者以外は安全な場所に退避させる。

：風上から水を噴霧して、容器を冷やしながら周囲の消火を行う。

：周辺火災の場合は、容器を安全な場所に移動する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

：耐火手袋、耐火服等の保護具を着用し、火災からできるだけ離れた風上から消火にあたる。

：このガスが漏えい又は噴出ししている場所では、窒息並びに二酸化炭素中毒のおそれがあるため換気を行い、必要に応じて陽圧式空気呼吸器を着用する。また、皮膚に付着させないよう、保護眼鏡、乾いた皮手袋等の保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏えい区域として隔離し、ガスが拡散するまで関係者以外の立入を禁止する。

：窒息並びに二酸化炭素中毒の危険を防止するために、換気を良くし、ガスの吸入を避ける。特に、液化ガスが漏えいして気化すると体積が数百倍になるため注意する。

：漏えいを止められない場合は、風下の人を退避させ、風通しの良い安全な場所に避難する。

：漏えい区域に入る者は、必要に応じて、空气中の酸素濃度を測定管理し、陽圧式空気呼吸器を着用する。

：液化ガスが直接身体に触れると凍傷を起こす。取扱うときは保護眼鏡、乾いた皮手袋等の保護具を着用する。

：データなし

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法及び機材

：換気を良くし、速やかに大気中に拡散、稀釈させる。

：安全に対処できるならば漏えいを止める。

：窒息並びに二酸化炭素中毒の危険を防止するため、漏えいしたガスが滞留しないように換気を良くする。

：ガスの供給を絶つ。

：大量の漏えいが続くようであれば、周囲をロープ等で囲み、立入禁止とする。

二次災害の防止策

: 漏えい箇所より低い場合（地下室、ピット等）への立ち入りは、二酸化炭素濃度を測定して安全を確認した後にする。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱者のばく露防止

: 酸素濃度 18 vol%未満のガスを吸入すると、窒息のおそれがある。また、二酸化炭素濃度 3 vol%&超のガスを吸入すると、二酸化炭素中毒のおそれがある。ばく露を防止するため、換気を良くする。

: 液化ガスが直接身体に触れると凍傷を起す。取扱うときは保護眼鏡D、乾いた皮手袋等の保護具を着用する。

: 液化ガスは、液膨張、気化膨張により配管を破壊するおそれがあるため、配管内で閉塞させない。

: 容器を電気回路の一部に使用しない。

: 容器を熱すると爆発のおそれがある。容器弁等を加熱するときは、40℃以下の温水で温め、バーナー等で直接加熱しない。

: 深冷液化ガスは、多くの材料を脆くするため、材料の選択に注意する。低温脆性を起こさない適正な材料は、オーステナイト系ステンレス鋼、9%ニッケル鋼、銅、アルミニウム等がある。炭素鋼は低温脆性を起こすため使用できない。

: 容器には、充填許可を受けた者以外がガスの充填を行ってはならない。容器の修理、再塗装、容器弁及び安全装置の取り外しや交換等は、容器検査所以外で行ってはならない。

: 容器の刻印、表示等を改変、除去、若しくは剥離してはならない。

: 容器付属品（可溶栓、破裂板等）を操作してはならない。

: 容器の授受に際しては、あらかじめ容器を管理する者を定めておく。使用後の容器は残圧を残り、確実に容器弁を閉め、保護キャップを付けた上で、速やかに販売者に返却する。

: 契約に示す期間を経過した容器及び使用済みの容器は速やかに販売者に返却する。

局所排気・全体換気

: このガスを使用するにあたっては、窒息並びに二酸化炭素中毒のおそれがあるため換気を良くし、密閉された場所や換気の悪い場所で取扱わない。特に液化ガスが漏えいして気化すると体積が数百倍になるため注意する。

: このガスを使用するタンク類の内部での作業は、このガスの流入を防ぐと共に十分な換気を行い、労働安全衛生法に従い行う。

: 高圧ガス保安法の定めるところにより取扱う

: 使用するガス関連機器の取扱説明書を読み取り、全ての安全注意項目を読み理解するまで取扱わない。

: 容器の使用前に、容器の刻印、塗装、表示等を確認し、内容物が目的のものとは異なる場合には使用せずに、販売者に返却する。

: 密閉された場所や、換気の悪い場所では使用しない。万一そのような場所で使用する場合は、酸素濃度が 18 vol%未満、二酸化炭素濃度が 0.5 vol%以上にならないよう測定管理する。

: 容器の充填圧力に見合った機器を使用する。

: 容器には、転倒、転落等を防止する措置を講じ、かつ粗暴な扱いをしない。

: 使用形態により容器のサイホン管有無を確認する。ガスで使用する場合はサイホン管無し、液体で使用する場合はサイホン管有りの容器を使用する。

: 液化炭酸ガスは、配管や容器の内圧が 0.42 MPa 以下になると下

ライアスになり、閉塞等のおそれがあるため内圧を下げすぎないよう注意する。

: 2,000°C以上に加熱すると分解し、有毒な一酸化炭素が発生することによる中毒の危険性があるので注意する。

: 液化ガスの容器は横倒しで取扱わない。可搬式超低温容器が横倒しとなった場合には、使用を中止し、容器記号番号と容器転倒の情報等、詳細を販売者に連絡の上、速やかに販売者に返却する。

: 容器をローラーや型の代わり等、容器本来の目的以外には使用しない。

: 容器弁の口金内部に付着した塵埃類を除去する目的でガスを放出する場合は、口金を人のいない方向に向け、容器弁を短時間微開して行う。

: 容器の取り付け、取り外し及びガスの使用にあたっては、ガスが漏えいしないよう注意し、漏洩検査には発砲液等を使用する。

: 使用開始前及び使用中は定期的に漏えいの有無を確認する。

: 容器弁の閉閉に使用するハンドルは所定のものを使用し、容器弁はゆっくりと開閉する。手で開閉が出来ないときは、ハンマー等で叩かず、

その旨を明示して販売者に返却する。

: 高圧のガスが直接人体に吹きつけられると、損傷を起こすことがあるため、高圧で噴出するガスには触れない。

: 深冷液化ガスの通る断熱していない配管は、凍傷を起こす危険があるため、直接触れない。

: 使用後は容器弁を完全に閉め、保護キャップを確実に装着する。

: 容器にこのガス以外のものが混入した可能性があるときは、容器記号番号と混入物の情報等、詳細を販売者に連絡する。

: 取扱い後は、手をよく洗う。

接触回避

衛生対策

保管

安全な保管条件

適切な技術的対策

: 高圧ガス保安法の定めるところにより保管する。

: 容器は保護キャップを装着し、風通し及び水はけの良い、乾燥した40°C以下の場所に施錠して保管し、腐食性の雰囲気や連続した振動にさらされないようにする。

: 充填容器、残ガス容器はそれぞれ区分して保管する。

: 液化ガスの容器は横倒しで保管しない。可搬式超低温容器が横倒しとなった場合には、使用を中止し、容器記号番号と容器転倒の情報等、詳細を販売者に連絡の上、速やかに販売者に連絡する。

: 液化ガスの容量が容器の内容積の90 vol%を超えてはならない。

: 低温容器は、熱侵入により内圧が徐々に上昇するため、安全弁が作動する前に放出弁を開けて内圧を下げる、ただし0.42MPaを超を保つ。なお、安全弁の元弁を閉止してはならない。

: 高圧ガス保安法で規定されている容器。

安全な容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会

ACGIH

: 5000 ppm (2021年版)

: TLV-TWA:5,000ppm (2019年版)

: TLV-STEL:30,000ppm (2019年版)

: 屋内で使用する場合は、換気を良くする。

: 必要に応じて、空気中の酸素濃度が18 vol%未満、二酸化炭素濃度が0.5 vol%以上にならないよう測定管理する。

設備対策

保護具

呼吸用保護具

手の保護具

: 必要に応じて、陽圧式空気呼吸器を使用する。

: 使用形態に応じた手袋を着用する。

眼、顔面の保護具
皮膚及び身体の保護具

: 使用形態に応じた保護眼鏡を着用する。
: 使用形態に応じた作業服を着用する。
: 袖及びボタンの裾より肌を露出しない。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液化ガス
色 : 無色
臭い : 無臭
融点/凝固点 : -56.57°C (三重点)
沸点又は初留点及び沸点範囲 : -78.5°C (昇華点)
可燃性 : なし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 : なし
引火点 : なし
自然発火点 : なし
分解温度 : データなし
pH : データなし
動粘性率 : 3.7 (25°C、101.3Kpa、飽和)
溶解度 : データなし
n-オクタノール/水分配係数 (Log 値) : 0.88 L/L-H₂O (20°C、101.3kPa)
Log Pow=0.83
蒸気圧 : 5.729MPa (20°C)
密度及び/又は相対密度 : 1.977 kg/m³ (0°C、101.3kPa、気体)、
1.032 kg/m³ (-20°C、1.969kPa、液体)
相対ガス密度 : 1.53 (空気=1)
粒子特性 : データなし
その他のデータ : データなし
分子量 : 44.01

10. 安定性及び反応性

反応性 : 通常の条件では反応しないが、高温では反応する。
化学的安定性 : 常温常圧では比較的安定なガスである。
危険有害反応可能性 : 水との共存により酸性を呈し、鉄等の鋼材を腐食する。酸素の共存や高圧下では腐食は更に激しくなる。
避けるべき条件 : 2000°C以上に加熱すると分解し、有毒な一酸化炭素が発生する。
水との共存 : 水との共存
2000°C以上の加熱 : 2000°C以上の加熱
混触危険物質 : データなし
危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性 経口 : 分類できない
急性毒性 経皮 : 分類できない
急性毒性 吸入 (ガス) : 区分に該当しない
急性毒性 吸入 (蒸気、粉塵、ミスト) : レットの LC₅₀ 値 470,000ppm/0.5h = 167,857ppm/4h (PATTY (5th,2001)) に基づき、区分に該当しないとされた。
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない (分類対象外)
: 分類できない

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

- : 分類できない
- : 分類できない
- : 分類できない
- : 分類できない
- : 分類できない

呼吸器感受性又は皮膚感受性

- : 分類できない
- : 分類できない
- : 分類できない

生殖細胞変異原性

- : 分類できない

発がん性

- : 分類できない

生殖毒性

- : 分類できない

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

- : 区分3 (気道刺激性)
- ヒトへの影響として二酸化炭素は高濃度のばく露では呼吸中枢を刺激し、また、弱い麻酔作用が認められると記述されている (ACGI H (2001)) ことから区分3 (麻酔作用) とした。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

- : 分類できない
- : 区分に該当しない (分類対象外)
- : 液化ガスが直接身体に触れると凍傷を起こす。
- : 噴出するガスを眼に受けると失明するおそれがある。
- : 空気と置換することにより単純窒息性ガスとして次のような作用をする。

誤えん有害性

その他の情報

空気中の酸素濃度 (vol%)	酸素欠乏症の症状等
1 8	安全下限界だが、作業環境内の連続換気、酸素濃度測定、安全帯等・呼吸用保護具の用意が必要
1 6 ~ 1 2	脈拍・呼吸数増加、精神集中力低下、単純計算間違い、精密筋作業劣化、筋力低下、頭痛、耳鳴、悪心、吐気、動脈血中酸素飽和度85 ~ 80% (酸素分圧50 ~ 45 mmhg) でチアノーゼあらわれ る。
1 4 ~ 9	判断力低下、不安定な精神状態 (怒りっぽくなる)、ため息頻発、異常な疲労感、酩酊状態、頭痛、耳鳴、記憶障害、傷の痛みを感じない、全身脱力、体温上昇、チアノーゼ、意識朦朧、墜落 (階段・はしご)・瀕死の危険
1 0 ~ 6	吐気、行動の自由を失う、危険を感じても叫べず、虚脱、チアノーゼ、幻覚、意識喪失、昏倒、中枢神経障害、死の危険
6 以下	数回のあえぎ呼吸で失神、昏倒、呼吸緩徐・停止、心臓停止、死

: 二酸化炭素は、空気中の濃度により酸素濃度に関わりなく次のような作用をする。

空気中の二酸化炭素濃度 (vol%)	影 響
0.04	正常空気。
0.5 (TLV-TWA)	長期安全限界。(平均許容時間8時間の時間加重平均限度濃度)(ACGIH、日本産業衛生学会とも許容濃度としている) 作業性および基礎的生理機能に影響を及ぼさずに長時間にわたって耐えることができるが、カルシウム・リン代謝に影響の出る場合がある。
1.5	
2.0	呼吸が深くなる。一回の呼吸量が30%増加。
3.0 (TLV-STEL)	作業低下。生理機能の変化が体重、血圧、心拍数などの変化としてあらわれる。
4.0	呼吸がさらに深くなる。一回の呼吸量が30%増加。
5.0	呼吸が極度に困難になる。重度のあえぎ。多くの人がほとんど耐えられない状態になる。悪心(吐気)の出現する場合がある。
7~9	許容限界。激しいあえぎ。約15分で意識不明。
10~11	調整機能不能。約10分で意識不明。
15~20	さらに重い状態を示す。1時間では致命的ではない。
25~30	呼吸低下、血圧降下、昏睡、反射能力喪失、麻痺。 数時間後、死に至る。

1 2. 環境影響情報

生態毒性
残留性・分解性
生態蓄積性
土壌中の移動性
オゾン層への有害性

: データなし
: データなし
: データなし
: データなし
: データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

: 使用済み容器は残ガスを廃棄せず、そのまま販売者に返却する。
: 容器の廃棄は容器所有者が行い、使用者が勝手に行わない。
: やむを得ずガスを大気中に放出するときは、高圧ガス保安法の規定に従い、通風の良い場所で少量ずつ放出する。ただし、液状での大気放出はしない。
: 容器弁はゆっくりと閉閉し、廃棄した後は容器弁を閉め、保護キャップを確実に装着し、容器の転倒、転落等を防止する措置を講ずる。
: 容器弁等を加熱するときは、40℃以下の温水で温め、バーナー等で直接加熱しない。

1 4. 輸送上の注意

国連番号
品名 (国連輸送名)

: UN1013又はUN2187
: [UN1013]
CARBON DIOXIDE,
REFRIGERATED LIQUID
炭酸ガス [二酸化炭素又は無水炭酸] (深冷液化されているもの)
: クラス2. 2 (非引火性非毒性高圧ガス)
: 非該当

国連分類
容器等級

海洋汚染物質

：非該当
MARPOL 73/78 付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質
：非該当

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

- ：高圧ガス保安法の定めるところにより輸送する。
- ：液化ガスの容器は横倒しで輸送しない。
- ：容器を車両に積載して輸送するときは、運転席から独立した荷台に積載し、車両の見やすい所に「高圧ガス」の警戒標を掲げる。
- ：容器は保護キヤップを装着し、漏えいのないものを積み込み、転倒、転落、衝撃等を避けるべく荷崩れの防止を確実に行う。
- ：容器は40℃以上にならないように、温度上昇防止措置を行う。

国内規制がある場合の規制情報

陸上規制情報

高圧ガス保安法

- ：法第23条（移動）
- ：一般高圧ガス保安規則第48条（移動に係る保安上の措置及び技術上の基準）

消防法

- ：法第16条（積載方法及び運搬方法）
- ：危険物の規制に関する政令第29条（積載方法）
- ：危険物の規制に関する規則第46条（危険物と混載を禁止される物品）第1項第2号；高圧ガス

道路法

- ：法第46条（通行の禁止又は制限）
- ：施工令第19条の13（車両の通行の制限）第2号；高圧ガス

海上規制情報

船舶安全法

- ：法第28条（危険物等の規制）
- ：危険物船舶運送及び貯蔵規則第2条第1号（危険物）ロ；高圧ガス
- ：船舶による危険物の運送基準等を定める告示別表第1；UN1013又はUN2187

港則法

- ：法第20～22条（危険物）
- ：施行規則第12条（危険物の種類）
- ：港則法施行規則の危険物の種類を定める告示別表第2号イ；高圧ガス

航空規制情報

航空法

- ：法第86条（爆発物等の輸送禁止）
- ：施行規則第194条（輸送禁止の物件）第1項第2号；高圧ガス
- ：航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示別表第1（輸送許容物件）；UN1013又はUN2187
- 緊急時応急措置指針番号：120

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質排出把握管理促進法（PRTTR制度）

- ：非該当
- ：労働安全衛生規則第24条の14、15（危険有害化学物質に関する危険性又は有害性等の表示）
- ：法第28条の2（事業者の行うべき調査等）
- ：非該当

労働安全衛生法

毒物及び劇物取締法

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する調査

高圧ガス保安法

- ：法第2条第3号；液化ガス
- ：一般高圧ガス保安規則第2条第1項第4号；不活性ガス
- ：コンピナート等保安規則第2条第1項第3号；不活性ガス
- ：施行規則別表第1；指定添加物

食品衛生法

地球温暖化対策の推進に関する法律

- : 法第2条第3項（温室効果ガス）
- : 14. 輸送上の注意の通り。
- : 14. 輸送上の注意の通り。
- : 14. 輸送上の注意の通り。
- : 14. 輸送上の注意の通り。

道路法

船舶安全法

港則法

航空法

16. その他の情報

引用文献

- 1) 職場のあんぜんサイト（GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報）
: 厚生労働省
(https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND_Aspw)
- 2) SDS・ラベル・イエローカード
: 日本産業・医療ガス協会
(https://www.jimga.or.jp/business/sds_label_yellowcaed/)
- 3) 高圧ガスハンドブック : 日本産業・医療ガス協会
- 4) 緊急時応急措置指針 : 日本化学工業会
- 5) 国際化学物質安全性カード（ICSCs）
: 国立医薬品食品衛生研究所 (<https://www.nihs.go.jp/ICSC/>)
- 6) NITEー化学物質管理分野
: 製品評価技術基盤機構 (<https://www.nite.go.jp/chem/index.html>)

記載事項の取扱い

- : この安全データシートび記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成していますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。
- : 記載事項は通常の取扱いを対象にしたものであり、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。
- : すべての化学製品は「未知の危険性、有害性がある」という認識で取扱うべきであり、その危険性、有害性も使用時の環境、取扱い方、保管の状態、及び期間によって大きく異なります。ご使用時はもちろんのこと、開封から保管、使用、廃棄に至るまで、専門知識、経験のある方のみ、又はそれらの方々の指導のもとで取扱うことを推奨します。
- : ホームページ等への転載、当製品をご使用にならない方への提供はお断りします。